

令和元年度第6回経営協議会議事要旨

日時 令和2年3月24日（火）12時55分～14時30分
場所 札幌駅前サテライト（教室1）
出席者 学外委員：今井、柿沼、蔵本、松岡
学内委員：蛇穴、佐川、後藤、横山、黒崎
オブザーバー：高橋、中尾、玉井、海老名
欠席者 学外委員：小野寺、佐藤、見上

議事に先立ち、学長から、新型コロナウイルス感染症に対する対応について、報告があった。

◎ 令和元年度第5回議事要旨の確認等

学長から、資料1に基づき、第5回の議事要旨及び第3回及び第4回の書面協議の議事要旨について説明があり、確認・了承された。

◎ 議題

1 北海道教育大学における年俸制の導入について

黒崎理事及び人事課副課長から、資料2に基づき、本学における年俸制の導入について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、学内手続きを進めることとした。

【学外委員からの主な意見等】

- 大学の向かうべき方向に合致した教員を確保し、育成していくことが年俸制の肝であり、学長が強いリーダーシップを持って、導入の趣旨を組織全体に理解してもらうことが必須である。
- 教員採用について学長の権限及び大学の中核の考え方を反映させなければ、年俸制の趣旨がぶれてしまうと考える。導入に向けては、学長、経営協議会の意見を反映させつつ、方向性をしっかり定め進めてほしい。
- 制度の導入に向けては、業績評価の基準をしっかりと検討すべきである。
- 業績評価は、責任者と話し合った目標を設定し、その目標に対する成果を評価することが一般的である。目標をしっかりと議論し定めることにより、制度の公明性を確保できるとともに、教育大学の教員の目標が明確になるのではないかと考える。

2 令和2年度年度計画について

海老名副学長から、資料3-1及び資料3-2に基づき、令和2年度年度計画(案)について説明があり、審議の結果、年度計画番号42-2を一部修正し、役員会に付議することとした。

3 令和3年度改組の新教職大学院について

佐川理事から、資料4に基づき、令和3年度改組の新教職大学院に係る設置計画の概要について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

【学外委員からの主な意見等】

- 教員の質や社会的評価を高めるための核としての役割を教職大学院に期待している。教育課程の充実を図るとともに教育委員会と更に連携を深め、教職大学院で学んだ者が教育現場で活躍できる仕組みや処遇について、検討を進めてほしい。
- 教職大学院で学ぶことにより、知性として、教員としての現場経験と知識だけではなく教養を得ることができるような要素を盛り込むべきと考える。

4 令和2年度収支予算書（案）について

黒崎理事及び財務部長から、資料5-1から資料5-4に基づき、令和2年度収支予算書（案）について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

5 目的積立金の執行計画及び取崩しについて（案）

黒崎理事から、資料6-1から資料6-5に基づき、キャンパス活性化リノベーション事業（3件）に係る目的積立金の執行計画及び取崩しについて説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

◎報告

1 就業規則の一部改正について

黒崎理事から、資料7-1及び資料7-2に基づき、職員給与規則の一部改正について、報告があった。

2 役員給与規則の一部改正について

黒崎理事から、資料8-1及び資料8-2に基づき、役員給与規則の一部改正について、報告があった。

3 平成30年度監査結果と監事意見への対応について

学長から、資料9に基づき、監事から学長に提出のあった「平成30年度監事監査報告書」の監査結果と監事意見への対応状況について、報告があった。

◎その他

【学外委員からの主な意見等】

- 新型コロナウイルスによる休校に伴い、学校に通わなくてもデジタルで教育を受けることができるシステムが注目されている。これにより起こりうる変革に備え、デジタル技術を活用した教育の在り方や教師の役割について、議論してみたいかがかと考える。

以 上